

高速道路整備が世界遺産白川郷の観光実態に与える影響調査

名城大学大学院 学生会員 ○西本 将典
 名城大学大学院 フェロー 松井 寛
 名城大学大学院 学生会員 枅川 幸詩
 名城大学大学院 学生会員 藤井 貴浩

1. はじめに

岐阜県白川村の合掌造り集落は、平成7年にユネスコ世界遺産条約に基づき国内で6番目の世界文化遺産として登録され、年々全国各地から多くの観光客が訪れるようになった。また、平成11年11月に東海北陸自動車道荘川ICが開通、平成14年11月には白川郷ICが開通し、そして今後は平成20年頃に白川郷IC～飛騨清見IC間が開通する予定であり、白川郷へのさらなる影響が予想される。現在は行楽シーズンに集中して観光客が訪れているが、今後は白川郷までの旅行時間の短縮と白川郷までの道のりの心理的負担感が軽減されることにより、行楽シーズン以外に今以上に訪れると予想される。そこで本研究では、高速道路整備により日帰り客数の増加、行楽シーズン以外のシーズンの観光客数の増加について注目し、まず観光客の旅行実態について把握し、旅行日程、今回と次回の旅行目的、宿泊地について分析を行った。

2. 白川郷の観光客数と四季別日帰り客数の推移

図1、2は白川郷での宿泊客数と四季別日帰り客数の関係を示している。図1から平成11年、平成14年に荘川IC、白川郷ICが開通したことにより年々日帰り客数は増加し、荘川ICの開通する前の平成10年と白川郷ICの開通後の平成14年を比較すると、年間約50万人日帰り客が増加しており、これは高速道路整備により旅行時間が短縮されたために日帰り観光圏が拡大したことによると考えられる。しかし、宿泊客数は高速道路が整備される前と後では年間約6千人増加した程度にとどまっており、平成10年から平成15年まで年間平均6万人前後と高速道路整備による効果はそれほど大きくなかった。図2から荘川ICが開通した平成11年と平成13年の行楽シーズンの観光客数を比較すると二年間で20万人観光客が増加しているが、平成15年と比較

キーワード：高速道路整備 白川郷 世界遺産
 連絡先：〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501

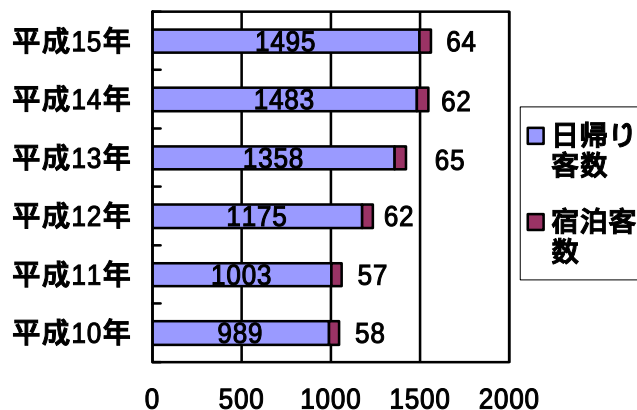


図1 白川郷の観光入込み客数（単位：千人）

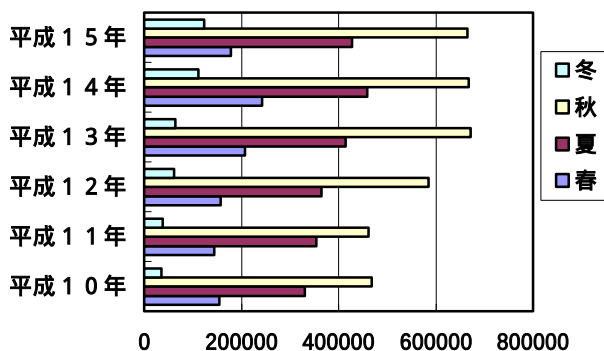


図2 白川郷の四季別日帰り観光客数（単位：人）

すると1万人減少しておりその分、冬の観光客数が平成10年と比較すると約4倍の12万5千人訪れている。今後は、高速道路整備の影響でさらに行楽シーズンよりも冬に訪れる観光客が今よりも増加し、観光客の分散化が進むのではないかと考えられる。

3. 白川郷観光実態に関するアンケート調査

3.1 アンケート調査概要

白川郷を訪れる観光客の旅行実態を把握し全線開通後の観光実態を把握するため、昨年に引き続きせせらぎ公園駐車場で週末の二日間調査を行った。

調査日時：平成16年11月6日(土)、7日(日)

調査場所：せせらぎ公園駐車場（普188 大38）

（荻町地区 世界文化遺産指定地区）

アンケート調査

名城大学

TEL&FAX：052-832-1151

3.2 調査項目

前回訪れたとき、今回、次回訪れる時の旅行目的・訪れた観光地・日程・交通手段・利用経路・時間帯別スケジュール・住所・年齢・性別等 全 24 項目

3.3 調査結果

アンケートのサンプル数を以下に示す。

11月6日(土)	130 サンプル
11月7日(日)	222 サンプル
合計	352 サンプル

4. アンケート結果

4.1 地域別の次回の旅行目的

図3は次回、白川郷を訪れることを旅行日程としての地域別の目的を示す。東海地方は紅葉が75人と最も多く、次にライトアップの41人という結果となったが、他のどの地方も同様に多い結果となった。他の目的では春の桜が20人と多かったが、夏に訪れたいという回答はみられなかった。今後は高速道路整備により行楽シーズンに訪れていた観光客が、冬のライトアップを目的として訪れ、観光客の分散化が今以上に進むのではないかと考えられる。

4.2 地域別の次回の日程と目的別の宿泊地の関係

図4、5、6は次回、白川郷を訪れることを旅行日程としての地域別の旅行日程、目的別の宿泊地の関係を示す。図4から東海地方、北陸地方は日帰りが84人、54人と多い結果となったが、他の地方は1泊2日が多い結果となった。しかし、関東・関西からでも日帰りで訪れるという回答もあり高速道路整備による影響であると考えられる。図5、6から紅葉を目的として訪れる観光客のうち白川郷で宿泊という観光客は15%であったが、ライトアップを目的とすると白川郷での宿泊は46%という結果となった。図1から東海北陸道が開通することにより日帰り客が増加すると予想されるが、東海北陸道が全線開通により白川郷までの交通アクセスがさらに容易となり、今まで冬に訪れたいと考えていた観光客が今まで以上に白川郷を訪れると予想され、シーズンオフの冬の時期に白川郷の宿泊客数を増加させ観光客の分散化が進むのではないかと考えられる。

5. まとめ・今後の課題

本稿では高速道路整備により日帰り客数の増加、行楽シーズン以外のシーズンの観光客数の増加について注目し、まず観光客の旅行実態について把握し、

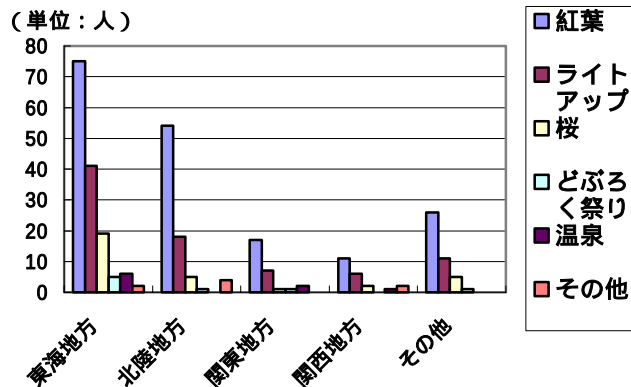


図3 地域別の次回の目的

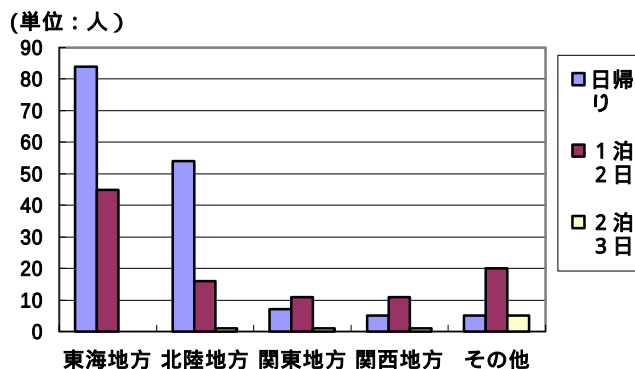


図4 地域別の次回の旅行日程

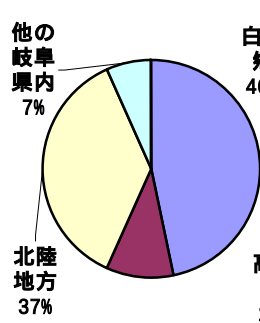


図5 ライトアップを目的としての宿泊地

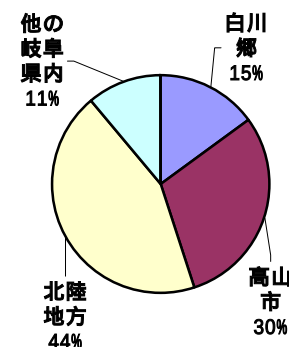


図6 紅葉を目的としての宿泊地

旅行日程、今回と次回の旅行目的、宿泊地について分析を行った。結果として、莊川 IC 開通から平成13年までは行楽シーズンの観光客数は増加したが、平成13年以降は徐々に減少し、冬の観光客数が増加した。また次回は秋に訪れたいという観光客も多かったが、次に冬のライトアップを目的とし白川郷で宿泊したいという観光客が多く、今後は今以上に観光客の分散化が進むのではないかと考えられる。今後は時間帯別スケジュールを分析することにより旅行時間、目的地、周遊ルートの分析を行う。

[参考文献]白川村役場ホームページ観光課 商工光課情報及び観光統計、交通量調査参照